

# 路線バスが危ない!!



平成18年10月から、鳥取県は利用者の少ないバス路線（1便当たりの乗車密度が2人以下）に対する補助金の支給を「2年間を目標とする」として実施しました。その対象路線は、県下で30路線、西部地区では11路線ありました。

南部町では、利用者増加と経費削減を目標として、路線の統合などの改善を行ってきました。路線ごとに改善した後、半年から1年が経過しましたが、思うような利用者増加に繋がっておらず、苦しい運行状況が続いています。

現在、町内には日ノ丸自動車が行っている西伯地区5路線、会見地区1路線の計6路線のバスがあり

ます。中でも深刻な状況にある路線が、会見地区の御内谷線（米子駅〜御内谷18.3km）です。

## 御内谷線

御内谷線は、昭和28年から運行されている歴史ある路線です。昭和40年代には年間30万人を超える利用者がありました。時代の変化とともに平成18年には2万人1千人程度になってしまいました。乗車密度2人を切ったため、平成19年4月から運行路線、運行時間などを見直したものの、乗車密度は1.5人と悪化の一途をたどっています。このままだと、平成20年9月末日まで県からの補助金は打ち切りの可能性が高く、継続が危ぶまれます。

平成19年度の御内谷線は、約80万円の運行赤字があり、その内、県が350万円、南部町が270万円、米子市が260万円を負担しています。県の補助金打ち切りとなれば、赤字額の全額を米子市と折半するか、最悪では廃止することになってしまいます。

## 路線バスに乗ろう

御内谷線に限らず、他の路線バスについても利用者は減少が続いています。西伯地区では、路線バスは小学生の通学手段として重要な交通機関となっています。しかしながら、いずれの路線も乗車密度が3人前後となってきたり、予断を許しません。

便利な自家用車での通勤、通学を控え、一人ひとりが少しでも路線バスの今後を考えていただき、月1回でも利用を増やしていただくことが、最も大きな力となります。高齢者の方や将来にわたって利用する子ども達のためにも、運行が継続できるよう、新しく設置した南部町地域公共交通会議で議論を深めますので、みなさんも路線バスの現状をご理解いただき、積極的な利用をお願いします。

### 乗車密度とは

輸送収入を走行キロに平均賃率をかけた数字で割り戻した数字（初めから終わりまでバスに乗っている人数）